広報かもがわ
No.779
◆平成28年10月15日発行 ◆発行 鴻巣市役所
◆http://www.city.kounosu.saitama.jp/
◆吹上支所 ☎048-548-1211 FAX 048-549-1082
◆川里支所 ☎048-569-1111 FAX 048-569-1184

みんなで創ろう コウノトリの里プラス Vol.10

今回のテーマは、
～鴻神社宮司、こうのとり伝説を語る～ です！

本市がコウノトリをシンボルとして進める「人にも生きものにもやさしいまちづくり」を紹介するコーナーがパワーアップ。この取組を支える「ひと」にスポットを当て、旬な話題をご紹介します。

問い合わせ／地域活性化特命チーム（内線2112）

本市の歴史を今に伝える「鴻神社」の伊藤千廣宮司にお話を伺いました

―鴻神社に伝わる「こうのとり伝説」は、鴻巣という地名の由来になったともいわれていますね。

そうですね。こうのとり伝説は、この地にまつわる「コウノトリ」と「大蛇」との戦いを描いたお話です。実はこの伝説は、古代の豪族同士の争いをなぞらえたものだともいわれています。日本書紀には、大和朝廷の支援を受けた側の豪族・笠原直使主（かさはらのあたいおみ）が勝利し、この地を治めたと書かれています。民俗学者の柳田國男さんの著書によると「コウノトリ」にまつわる民話が現在の千葉県市川市（国府台）や岡山県倉敷市（児島）などにも伝わっている、との記載があります。当時の時代背景とコウノトリにまつわる話が各地に残っていることから、コウノトリは大和朝廷を象徴する存在だったのではないか、と私は考えています。かつてコウノトリは、わたしたち人間にとって、身近な存在だったのかもしれませんね。

鴻神社の社殿と両脇にそびえる大銀杏

―境内は、歴史を感じる社殿と市の保護樹木でもある銀杏の木が印象的ですね。

「鴻三社」と称されていた江戸時代には、氷川社・熊野社・雷電社の３つの社殿があり、中山道から現在の国道17号を越えるあたりまでの約7,000坪の敷地でした。県内でも有数の広さだったといわれています。その後、さらに７つの神社を合祀し、社号を現在の「鴻神社」と改めました。元禄時代から数えて私で10代目の宮司になりますね。

―おおとり祭りの「こうのとり伝説パレード」をはじめ、市民にとってコウノトリは、なじみの深い存在となっていますね。

おおとり祭りは、元は鴻神社の秋の例祭です。華やかに飾り付けられた大きな山車が曳かれ、大変賑わったといわれています。現在も「こうのとり通り」など、市民がコウノトリに親近感を持っているように感じます。鴻巣は、古くから宿場町として栄え、歴史と伝統を伝えるまちです。遺跡や文化財、ひな人形や赤物づくりの技術など、後世に残していきたいものが数多くあります。これらの貴重な情報資産を埋もれさせることなく発信し、後世に伝えていくことはもちろん、価値あるものとして活用していくことができればと思います。まずは「知る」ことで「わがまち鴻巣」への愛着につながっていくと思います。特に、新たに市民となった人たちに知ってもらいたいですね。市でも、市民が誇りや愛着を持てるような取組を進めて欲しいです。

ひなちゃんニュース

いろんな生きもの発見！

明用地内の田んぼと水路で生きもの探しをしたよ。明用・三町免環境保全会が、市民団体と協力して開催したんだ。お友達とたくさんの生きものを見つけたよ。田んぼや水路は、生きものの大切なすみかになっているんだね。皆さんのお話から、水路の手入れをしたり、畦（あぜ）地の草刈りをしたり、たくさんの人の努力で田んぼが守られていることも分かったよ。田んぼのあるふるさと鴻巣の風景を、ずっと残していきたいね。

水路に生きものがたくさんいたよ

人口と世帯 ◆**人口** 119,001人（前月比－37）［男 59,015人／女 59,986人］ ◆**世帯** 48,469世帯（前月比＋24） ※10月1日現在